

a journal



NAGOYAKINEMA
NEU

ナゴヤキネマ・
ノイ

5 2026
月号

〒464-0850

名古屋市千種区今池 1-6-13
今池スタービル 2F

Tel.052-734-7467

https://nk-neu.com

5月の定休日
火曜日(不定)

5/12・
19・26

毎月発行

RESERVATION

■各作品の10日前から上映1時間前までは公式サイトからプリペイドで席のご予約ができます。

■現金でのご購入、特別鑑賞券、ご招待券をご使用の方は、10日前から当日までの窓口受付(座席指定)をご利用ください。

PLATFORM



公式サイト 公式 Facebook 公式 X 公式 Instagram
@nkn_2024 @nkn_2024

上映スケジュール表は2面をご覧ください

ACCESS



ナゴヤキネマ・ノイ

- ▶地下鉄今池駅⑨・⑩番出口より徒歩3分
- ▶今池スタービル2F(契約駐車場なし)

4.18(土)~5.8(金)『蒸発 JŌHATSU』

監督:アンドレアス・ハートマン、森あたら(2024年 86分)



4.25(土)~5.8(金)『砂丘』 ZABRISKIE POINT

監督:ミケランジェロ・アントニオーニ(1970年 113分)



5.2(土)~8(金)

『XiXi(シィシィ)、私を踊る』

監督:ウー・ファン(2024年 100分)



5.2(土)~8(金) 追悼 / 映画監督 フレデリック・ワイズマン

※②~④は途中休憩あり。《4作品 / 日替》

- ①ナショナル・ギャラリー 英国の至宝 (2014年 181分)
- ②ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス (2016年 205分)
- ③ボストン市庁舎 (2020年 274分)
- ④至福のレストラン/三つ星トロワグロ (2023年 240分)



5.9(土)~15(金)『森に聴く』

監督:山上徹二郎、今井友樹(2026年 76分)

●舞台挨拶:5月10日(日)山上監督、今井監督



5.9(土)~22(金) チェコ映画傑作選

※★は初公開作。《3プロ / 入替》

- ①ヤン・ニェメツ監督作品(2本立)
 - 一口のパン (1960年 111分★)
 - 夜のダイヤモンド (1964年 67分)
- ②第五の騎士は恐怖 (ズビニェク・グリニフ1965年 98分★)
- ③火葬人 (ユライ・ヘルツ1968年 100分★)

5.9(土)~15(金) 奇想天外映画祭 2025-2026

《8作品 / 入替》

- ①闇の中の魅惑煙囪 (中平康 1971年 110分)
- ②赤い唇 (ハリー・クーメル 1971年 100分)
- ③肉体の悪魔 (ケン・ラッセル 1971年 113分)
- ④デコーダー (ムシャ 1984年 87分)
- ⑤リキッド・スカイ (S・ツッカーマン 1982年 112分)
- ⑥血を吸うカメラ (マイケル・パウエル 1960年 102分)
- ⑦昇天峠 (ルイス・ブニュエル 1951年 76分)
- ⑧くすぶりの年代の記録(M・L=ハミナ 1975年 178分)



5.16(土)~29(金) 特別上映『五月の雨』



監督:富田玲央(2025年 74分)
●連日、上映後にトークイベント(約30分)。
5/16(土) 富田監督、巴山祐樹さん(出演)
5/23(土) 熊上崇さん(製作総指揮)
※上記以外は、岡村晴美弁護士、山本恵子さん(ジャーナリスト)ほか。

5.16(土)~22(金) こだま『山人 やまんど - 縄文の響きが木霊する -』

監督:原村政樹(2025年 74分)
●舞台挨拶は、お問い合わせください。



5.16(土)~22(金)『ドウリムパレス』

監督:カ・ソンムン(2022年 112分)



5.16(土)~ 忘れ去られたヌーヴェルヴァーグの名匠 ギィ・ジル 《2作品 / 入替》

- ①海辺の恋 (1964年 73分 初公開)
- ②オー・パン・クベ (1967年 68分 初公開)



5.23(土)~ ル・コルビュジエとドーシ インドのモダニズム 《2作品 / 入替》

- ①ユートピアの力 (K・ブッハー他2023年85分) ●トーク(日程未定)
- ②誓い 建築家B・V・ドーシ (ヤン・シュミット=ガレ 2023年 90分)



5.23(土)~ 『パリから来た殺し屋』 4K

監督:ジャック・ドレー(1972年 112分)



5月上映スケジュール表

※5/12・19・26(火)は休館いたします。

※5/5(火・祝)は開館いたします。

5/2(土)～8(金)

	5/2(土)	3(日)	4(月・祝)	5(火・祝)	6(火・祝)	7(木)	8(金)
11:00	『蒸発 JŌHATSU』						
12:40	ミケランジェロ・アントニオーニ 『砂丘』						
14:50	『XiXi(シィシィ)、私を踊る』						
16:45	②ニューヨーク公共図書館	④至福のレストラン	③ボストン市庁舎	①ナショナル・ギャラリー	②ニューヨーク公共図書館	④至福のレストラン	③ボストン市庁舎

5/9(土)～15(金)

	5/9(土)	10(日)	11(月)	13(水)	14(木)	15(金)
11:00	『森に聴く』					
12:50	③火葬人	①一口のパン ほか	②第五の騎士は恐怖	③火葬人	①一口のパン ほか	②第五の騎士は恐怖
14時台	14:45②第五の騎士	14:30③火葬人	14:45①一口の ほか	14:45②第五の騎士	14:30③火葬人	14:45①一口の ほか
16:40	①闇の中の魍魎	③肉体の悪魔	⑤リキッド・スカイ	①闇の中の魍魎	⑥血を吸うカメラ	⑦昇天峠
18時台	18:50②赤い唇	18:50④デコーダー	18:50①闇の中の魍魎	18:50③肉体の悪魔	18:45①闇の中の魍魎	18:15⑧くすぶりの

5/16(土)～22(金)

	5/16(土)	17(日)	18(月)	20(水)	21(木)	22(金)
10:30	特別上映『五月の雨』※連日、上映後にトークイベントを予定(30分)。					
12:30	『山人やまんど - 縄文の響きが木霊する -』					
14:20	『ドゥリムパレス』					
16:30	ギィ・ジル ②オー・パン・クペ					
18:00	ギィ・ジル ①海辺の恋					
19:30	③火葬人	②第五の騎士は恐怖	①一口のパン ほか	③火葬人	②第五の騎士は恐怖	①一口のパン ほか

5/23(土)～29(金)

	5/23(土)	24(日)	25(月)	27(水)	28(木)	29(金)
10:30	特別上映『五月の雨』※連日、上映後にトークイベントを予定(30分)。					
12:30	ル・コルビュジエとドーシ インドのモダニズム ①ユートピアの力					
14:40	ル・コルビュジエとドーシ インドのモダニズム ②誓い 建築家 B・V・ドーシ					
16:30	『パリから来た殺し屋』					
18:40	ギィ・ジル ①海辺の恋					
20:10	ギィ・ジル ②オー・パン・クペ					

ご入場料金・入替制

一般 1800円 大学生・会員 1400円 高校生以下 1000円 シニア(60歳以上)1300円
障がい者・会員(シニア・学生)1100円 ペア割(2名)2800円

○会員サービスデー:木曜日 会員・障がい者 1000円・会員1名とのペア(2名)2000円
○ファーストディ 一般 1200円 会員・障がい者 1000円

特別料金 〈追悼/映画監督フレデリック・ワイズマン〉

一般 2000円 ペア 1800円 シニア・学生・障がい者・会員 1600円 (※サービスデーはありません。)

会員募集

お申込日から1年有効で2000円。
会員特典は当日お料金の割引のみになります。
受付は劇場窓口にてお願いいたします。

『蒸発 JŌHATSU』

人間関係のトラブル、借金、ヤクザからの脅迫など、様々な理由で日本では毎年約8万人が失踪している。「蒸発」である。「夜逃げ屋」の手を借りて見知らぬ土地でリスタートする人も少なくない。本作は、現代日本の闇に切り込み、蒸発の実像、夜逃げ屋の仕事、そして失踪後の生活を捉えるドキュメンタリー作品だ。プライバシーの問題で素顔を明かせないのが当然な題材に、いわゆる「ボカシ」だけでなく、AI技術で一部の顔や声に加工していることも、表現のあり方として一石を投じていると言える。(86分)

『砂丘』

フェリーニ、ヴィスコンティと並ぶイタリア映画の巨匠であり、いち早く時代性と対峙し描き出したミケランジェロ・アントニオーニの傑作のリバイバル公開。1960年代LAで学生運動に背を向け逃避するマークと不動産開発会社の秘書ダリアが出会う。ふたりを乗せたコンパティブルのビューイクはデス・ヴァレーの不毛の地に在るザプリスキー・ポイントへと……。(113分)

『XiXi(シィシィ)、私を踊る』

中国人のコンテンポラリーダンサー XiXi は幼い娘ニナを元パートナーに託し、自由を探索してヨーロッパを放浪、鳥のように踊る。ベルリンで彼女に出会い、強烈に惹かれた台湾出身のウー・ファン監督は製作までの7年をかけて彼女を追いかけ始めた。癒されぬ痛みも憧憬も悲しみも怖れも、表現によって解放するその存在に触れ、いつしか監督も自身のトラウマにも向き合っていく…。(100分)

追悼 / 映画監督 フレデリック・ワイズマン 4作品 / 日替

今年2月に惜しくも逝去した米国のドキュメンタリー映画監督フレデリック・ワイズマンの晩年期の傑作『ナショナル・ギャラリー 英国の至宝』(181分)、『ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス』(205分)、『ボストン市庁舎』(274分)、『至福のレストラン / 三つ星トロワグロ』(240分)を上映します。いずれも日本初公開時に大きな反響を呼び、人類の資産である文化、民主主義と公共について、今こそ痛烈に語りかけてくる傑作です。

『森に聴く』

土本典昭監督や佐藤真監督のドキュメンタリー作品や、『ぐるりのこと』『絵の中のぼくの村』などの傑作を生み出してきた名プロデューサー山上徹二郎の長編初監督作品(共同監督は『明日をへぐる』の今井友樹)。北海道・雄阿寒岳山麓、宮城県・鳴子、大分県・日田、熊本県・市房山、沖縄県・西表島など、日本を代表する研究者らと各地を訪ね、悠久の時を生き抜いてきた、ありのままの自然、深い森に分け入り、その知性の神秘に迫り、文明の根源を問いかける(76分)

チェコ映画傑作選 3プロ/入替

欧州の中心にあり、最も美しい街とよばれるプラハを抱くチェコは1930年代後半、ナチスの侵攻に伴い支配とホロコーストによる甚大な犠牲を被った。大戦後の1960年代の作品から、ファシズムの恐怖と人々を描いた衝撃的な傑作を公開。チェコ・ヌーヴェルヴァーグの主要監督ヤン・シュメツの卒業制作作品ながらタイナ演出と撮影が輝く『**一口のパン**』(11分)、強制収容所へ向かう列車から脱走した少年の記憶と現実を巧みに描き出す『**夜のダイヤモンド**』(67分)の瑞々しさ! 負傷したレジスタンス兵の治療薬を求め、戦争に蝕まれていくプラハをさまようブラウン医師の『**第五の騎士は恐怖**』(98分)はタイム誌で最高峰の映像美と讃えられた。『**火葬人**』(100分)は葬儀社に勤める凡庸な男カレルがファシズムに影響されていくおどろおどろしい暗黒のコメディ。シッチェス・カタロニア映画祭グランプリ作品。

奇想天外映画祭 2025-2026

8作品 / 入替

毎回、驚きのセレクションでアイデアの多様性、表現の可能性、映画の未来をも見せてくれるシリーズ企画「奇想天外映画祭」。今回特筆すべきは『**闇の中の魍魎魍魎**』(110分)。中平康監督、新藤兼人脚本コンビが、幕末土佐の異端の絵師“絵金”を描く。常軌を逸した若き日の悪魔は歴史に残る怪演。ケン・ラッセルの『**肉体の魔窟**』は17世紀フランスで実際にあった悪魔憑き事件に正面から斬り込む異色作。(113分)他にも『**赤い唇**』『**昇天峠**』『**くすぶりの年代の記録**』など、狂乱のプログラム!

特別上映『五月の雨』

DVや虐待の当事者や支援者から懸念の声が上がり24万筆の署名が寄せられながら、今年4月から共同親権制度が法的に採択、導入された。本作は「虎に翼」出演の安川まりと巴山祐樹が演じる痛切な劇映画と、実際の当事者への取材、採決をめぐる記録映像を組み込んだドキュメンタリーパートから構成されており、離婚後も人を追いつめていく制度の問題点を切実に描いていく。(74分)

『山人やまんど

- 縄文の響きが木霊する -

農業を通して、この国の過去と現在を見つめてきた原村正規監督最新ドキュメンタリーは、農業、農村から里山、そしてそれを取り巻く自然環境まで視野に入れた『**若者は山里をめざす**』、『**山里は持続可能な世界だった**』に続く三部作完結編。福島県奥会津地方の山奥の村で暮らし、山を知り尽くす菅家藤一(かんげとういち)さんの生活に密着し、四季を通じて、山とともに生き、山の恵みに生かされる暮らしを綴る。その含蓄のある言葉は未来へのメッセージにも聞こえる。(74分)

『ドゥリムパレス』

職場の事故で夫を失ったヘジョン(キム・ソニョン)は真相究明の抗議を組織してきたが、長い戦いの末やむなく受け入れた和解で息子と共に新築のタウンマシオン(ドリームパレス)へ転居。平凡な幸せを模索して進むヘジョンだが抗議の仲間、欠陥住宅、格差や子育てなど次々と社会のひずみに直面し孤立を深めていく…。問題に向き合う主人公の毅然とした行動力が強い共感を呼ぶ異色の傑作。(112分)

ギィ・ジル

忘れ去られたヌーヴェルヴァーグの名匠

2作品 / 入替

アルジェリアから1960年にパリに移住したギィ・ジル。短編映画を称賛したジャン＝ピエール・メルヴィルの支援で20歳にして初長編『**海辺の恋**』に着手。その後の作品発表も高く評価はされず、今回が日本劇場初公開となる。『**海辺の恋**』アルジェリアの戦地からの休暇で再会するダニエルとジュヌヴィエーブ。東の間の再会も儚く、時間と距離がふたりの人生を残酷に引き裂く。J=P・レオ、J=C・プリアリ、A・ドロン、J・グレコらが彩る、美しく繊細な愛の物語。(73分)『**オー・パン・クベ**』純粋無垢であるがゆえに居場所を見つけれずに世を去ったジャンを思い続けるジャンヌ。ふたりの思い出のカフェの名をタイトルに冠した愛の記憶と不在を痛切に切り取る映像詩編。(68分)

ル・コルビュジエとドーシ

インドのモダニズム

2作品 / 入替

西洋モダニズムをインドに融合し、実現した奇跡を2つのドキュメンタリーで紐解く企画。80年前、初代首相ネルーが独立後の新生インド北部に計画都市チャンディガールを構想し、建設をル・コルビュジエ(1887~

next arts 通信

BANKO archive design museum

三重県四日市のBANKO archive design museumが開館10周年を迎え、記念すべき特別企画展「The Other Ceramics」が開催中だ(5/25まで)。

地元で窯を構える陶芸家の内田綱一さんが興じた、産業遺産的な萬古焼をデザインの面から紹介、アーカイブするミュージアム。展覧会では、毎回センスの良いフライヤーと上質なカタログが発行されている。

今回の展覧会には舟越桂、杉本博司、奈良美智、イケムラレイコ、皆川明、さらに藤田嗣治、猪熊弦一郎、岡本太郎、山下清ら56名の作家たちによる、陶オブジェや絵付け皿など、それぞれ本業とは異なる大らかで自由な作品が並ぶ。たぶん内田さんが彼らの本業や世界観をリスペクトしている人選なのだろう。なかでも心惹かれたのは、浅野弥衛さんの黒い陶板。表面の引っ掻き具合など、なるほど弥衛さんらしい。技術を超えて、それぞれの表現力を垣間見られる愉しさは、このミュージアムらしい試みだ。

展示デザインも面白く、作品とともに作家の画集や展覧会図録が並置されている。ショップやカフェも心地よく、アートディレクターとしての内田さんの手腕が冴えている。

【トトチ】

無知の知

(その14) 核融合発電は所詮無理

最近、核融合が次世代エネルギーだ、という論調が増えている。国は原発回帰の政策をとったが、福島原発の廃炉も高レベル廃棄物の処分も六ヶ所再処理工場も、いずれも見通しが立たず無理が見えてくる。それに付け込んだ形で「核融合が未来のエネルギー」とマスコミも取り上げ始めた。高市首相も「核融合関連企業への投資」を呼び掛けている。だが騙されてはいけない。「原発は原爆をゆっくり燃やす」技術だが、「核融合は水爆をゆっくり燃やす」技術である。推進派は「核融合の燃料、トリチウム(T)は海水中に無限にあるので燃料に困らない」というが、海水のトリチウム濃度は1~2Bq(ベクレル)/L(濃度に換算すると3~6×10⁻¹⁵乗)グラム)しかない。核融合発電には毎日200gのトリチウムが必要で海水量に換算すると、毎日6万兆トンの海水を処理しなければならず、しょせん無理である。現在、実験レベルでも数秒間しか出来ていない。何より、核融合反応では膨大な量の「中性子線」が発生する。中性子線は強力なエネルギーを持ち、1mくらいのコンクリートは容易に突破し、その過程で吸収された物質を放射化する。「核融合発電は放射性廃棄物が出ない」というのも嘘である。(K)

1965)に託した。建築家が目指したのは自然と近代技術が調和する人間中心のユートピア。現在にも継がれている実験都市の「こころ」を人間性豊かな視点で探索する『**ユートピアの力**』(85分)。『**誓い 建築家B・V・ドーシ**』(90分)は、2018年にプリツカー賞に輝き2023年に逝去した建築家バルクリシュナ・ドーシを取材。ル・コルビュジエやルイス・カーンらと協働した壮大な建築物、自身が手掛けた今も残る様々な作品を再訪。インドの風土、精神性に触れる貴重な作品。

パリから来た殺し屋

フランスからやってきてロサンゼルスで手際よく「仕事」を終えたルシアン(ジャン＝リュック・トランティニヤン)だが、思いがけず畏にハマり、冷徹な殺し屋(ロイ・シャイター)に狙われる羽目に。外国人の目を通して見たアメリカの巨大都市はまるで迷路のようにルシアンを追い詰める。

クールなふたりの好演と、ジャン＝クロード・カリエールの脚本、ミシェル・ルグランの音楽という豪華すぎる協力を得て、『**ボルサリーノ**』などのアクション映画の職人監督ジャック・ドレーが冴えを見せる。日本初公開。(112分)

あいまい、まいにち、こんにちは

このコーナーを引き継ぐことになった。前任者が十三年余りにわたって書き続けてきた場所を受け継ぐことに、身の引き締まる思いがしている。内容は自由に、とのことだが自由と言われると、かえって何を書けばいいのか分からなくなってくる。

私は小劇場演劇を観ることが多いが、感想を言葉にするのは苦手。よく分からなかったけど良かったとか、怖かったとか、そんな曖昧な言葉しか出てこない。もつと整理して言語化できるようになりたい、とこれを書きながら心の底から思っている。

少し前、劇団あおきりみかんの公演で、鹿目由紀さんの『さいしよの歩一 浅賀ふさ物語』を購入した。出版社から出る初めての書籍だそう。演劇の物語で売られる戯曲は形もさまざまで、手作業でホチキス止めて製本したのも、発注して冊子になったものなど、作家のこだわりが垣間見えるものもあり面白い。その中で、出版社の本は行まいが違い、思わず手に取ってしまった。鹿目さんが「かわいい本」と話されていた通り、かわいらしく、同時にあたたかく力強さを感じる一冊だった。そして先日、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館で「絵には勇気がある」という帯の言葉に惹かれ、猪熊弦一郎さんの『私の履歴書』も思わず手に取ってしまった。芸術の喜びと、走り続ける覚悟が伝わってくる本だった。

最近、人の生き方に心を動かされることが多い。それはきっと私自身が迷いの中にいるからだろう。迷いながらも、自由に書いていけたらと思う。どうぞよろしくお願いします。(i)

ウニタ書店情報 (052-731-1380)

アメリカとイスラエルによるイランへの大規模軍事攻撃は、イラン側が徹底抗戦の構えを崩さず、当初の目論見とは異なり、長期化の様相を示している。焦りを募らせたのか、トランプ大統領は地上侵攻をちらつかせ、更に同盟国にも関与を要求するまでに至っている。日本も例外ではない。国連を軸とした国際秩序が崩壊の危機に瀕し、カオスな状況になりつつある今日、従来アメリカ追従の姿勢を続けることは極めて危険であり、戦争に引きずり込まれる可能性が増している。2月刊行の『**Z世代は戦後初めて銃をとる世代になるかもしれない**』(丹羽宇一郎・著)は、戦争の足音が近づいている状況で、日本のとるべき道は何かを、若い世代に向けて問いかけた書である。著者の丹羽氏は、民間企業出身の初の中国大使として、日中間の良好な関係の構築に尽力した人物として知られている。無謀なアジア・太平洋戦争を振り返り、軍部だけでなく、メディアも煽り立て、国民も戦争遂行を望んだ歴史を直視し、とるべき道は軍勢力を競い合う防衛政策ではなく、忍耐強い外交を軸とした安全保障政策である、としている。その過程で、望まない妥協を迫られることもあろうが、戦禍を避けるためには「不愉快な平和に耐える強剛さを持つてほしい」という言葉には、若い世代に希望を託そうとする著者の思いが感じられる。

昨年12月に他界した著者の遺言と言ってもよいだろう。

いなかのじけん

八朔

甘夏みかんの木が2本ある。甘夏は甘くない。酸っぱいので、夏みかん酒にして飲んべ仲間配ってやる。でも酸っぱいコイツをすきなヤツもいる。蓼食う虫も好き好き、私とヤギのユキちゃんだ。ユキちゃんにまだちょっと早そうなのをむいてやると、一口食べて、小首をかしげる。それでも、まあゆっくりと1個食べきる。「コレまだなんじゃねーの、食べてやるけどよう」1個食べると、スタコラサッと去ってゆく。これはいつもそうで、「1個だけだよ」という約束だからだ。

ご近所さんにも、どうぞご自由に、と言ってあるのだけれど、もらってくるない。結構皆さん植えているのだ。

玄関先にT勇さんが立っている。「これは余計な事かもしれないけど、向かって右つ側の夏みかんの木ねー、もらって食べてみたら、間違いない八朔だわ。食べたらで全部取ってビニール袋に入れて、日の当たらないところに置いていたらいいぞん、八朔だ。左つ側はただの甘夏だでどうでもいいわ。右つ側は八朔だ。違つ種類は夏みかん類だという事は何となく分かっていたものの、1本が八朔とは知らなんだ。しかもそれが割と上等なもの部類に入れているなんて。早速そうさせてもらいました。T勇さんとこにもバケツ一杯持って行くと、「こんなにもらっちゃあ悪いで、5個ぐらいでもいいぞん。」6個置いてきた。後日、お返しに奥様手作りイチゴ大福、6個いただきました。

6対6大型トレード成立。酸っぱいんだけどなあ。

**ナゴヤ
キネマ・
ノイ**

協力店

NAGOYA
KINEMA
NEU

みその皮膚科医院
Misono Dermatology Clinic
【院内処方 / 保険診療】

診療時間
午前 10時～13時・午後 15時～20時
毎週土曜・日曜・祝日休診

地下鉄伏見駅10番出口より徒歩2分

☎052-232-2214
http://www.misonohifu.com/

**BAR
パルク**

(円頓寺 Les piliers 併設)
演劇、映画、アート、音楽をつまみに

名古屋市中区那古野一丁目18-2
090-1620-4591(加藤)

国際センター駅②出口から徒歩5分
丸の内駅⑧出口から徒歩8分

不定休
詳細はツイッター@perkyapat1962

GOOD BOOZE CHEAP FOODS & HIP MUSIC

http://tokuzo.com
Tokuzoは
朝までやってる
呑み屋である。

052-733-3709
年中無休 pm6:00～am5:00
キネマ・ノイより北、広小路通へ
抜ける手前の青いビル 2F

open house
Analog Recordと
Restaurant Bar

052-753-4300
年中無休 pm6:00～am1:00
キネマ・ノイより東、環状線に
抜けた角、中屋パン地下 1F

**JAZZ
MATILDA**
DRINK & FOOD

●丸栄 入江町通
●かに本家 三蔵通
●フリンセス 白川通
●カナンホテル

JAZZ MATILDA
(グランビル5F)

●気軽に楽しめるお店です
●お一人様大歓迎 ●日・月曜日定休 ●席料 ¥500
●オーダー ¥300～ ●営業時間 19:00～24:00
名古屋市中区栄三丁目9番22号グランビル5F
☎052-263-6272

**パンクをしたら
DAISY**

052-228-0977

急ぎの荷物も当日お届け！
自転車便・自転車出張修理
デイジーメッセンジャー
名古屋市中区新栄 2-2-19

Hair Salon **VARIÉTÉ**
WEB: http://variete.hp4u.jp

ヘアサロン バリエテ

※営業時間
平日 11:00～21:00 土日祝 10:00～19:00

※定休日
月曜・第3月火曜連休

千種区池下 1-6-20 ☎751-7774
(チサンマンション池下203号) 1Fに「パルク」のあるビル

感じる、考えるひとのための本屋

bookshop & gallery
ON READING

www.onreading.jp
on_reading

地下鉄龜山公園駅2番出口より徒歩1分

みずたま

10:00-20:00
火曜・第1/3水曜休
本山駅6番出口すぐ
052-781-8239

アリガト

髪切って、凛とする。

〒464-0074
千種区中田2-18-23
052-761-7723

SHIMAUMA BOOKS
シマウマ書房

ナゴヤキネマ・ノイから東へ
徒歩5分。古本屋です。

名古屋市中千種区今池 5-14-3
11:00 - 18:00
定休日 火水
www.shimauma-books.com

アンティーク・リサイクル着物&カフェ

蘭丸

ウール400円～、正絹小紋2500円～
名古屋帯2500円～、半幅帯300円～
小物やオリジナル商品もございます。

キネマ・ノイより、南へ徒歩2分

052-735-6053
p.m.1:00～7:00 / 火曜・水曜定休
名古屋市中千種区今池3-2-9 ママビルディング1階

骨董・古書・美術品

こまればい

鑑定・買取

昭和区 桜山
☎052-853-1961

静寂の珈琲店
読書珈琲リチル

地下鉄今池駅徒歩1分

愛知県産
農業・化学肥料ゼロ栽培

まずは、お試し野菜セットから
お申込みはホームページ / お電話で
tel 052-851-7200

暮らしを耕す会

天然酵母パンとお野菜中心のお昼ごはん

**鞠奴パン
食堂**

●営業日 / 水・全曜日 am11時半～pm4時
緑区鳴海町幹の木31-2 TEL080(4301)3102
鍼灸「ハリのむしろ」も併設

中国伝統鍼灸・冷えとり健康法

**帰来堂
鍼灸療院**

地下鉄池下駅1番出口すぐ

9:30-18:30 (最終受付) 不定休
052-752-7817(予約制) kiraido.com
千種区池下1-11-7 MEビル202

おもしろ 楽し
三味線教室

無料体験しませんか
清元美哉 廣

090-6369-7795
otanesan9@gmail.com
桜山駅近く

星屑珈琲

群れない魂の止まり木

静かな夜型喫茶

ナゴヤキネマ・ノイから168歩

本と酒
ANZAI COVERDOCK
安西コブンド

19時～27時
不定休

社会と自分の「あいだ」で揺れ動く
現代人の姿を描く新作ダンス

(c) Joseph Marcinsky

WITH LIMBO Null

5.2 (土) 14:30 & 5.3 (日・祝) 14:00 全席自由・
愛知県芸術劇場 小ホール 整理番号付
500円(税込)

お問合せ 愛知県芸術劇場 052-211-7552 Email: contact@aaf.or.jp

印刷のことなら何でもご相談ください。

http://mokumoku.asia

名古屋中瑞穂区 tel 052-852-7611

名古屋シネマテークの
支配人平野勇治の遺稿集

平野勇治 著
安住恭子 発行

小さな映画館から
1650円(税込)

ウニタ書店・ナゴヤキネマ・ノイで販売中

たまさかの古本屋
シマウマ書房の日々

鈴木 創 著

2200円(税込)
亜紀書房/発行

12月9日発売 各書店にて

Free Palestine!

私たちにできること